（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	遊学館「つ・な・ぐー」			
○保護者評価実施期間	７年　１２月　１０日	～	８年　１２月　２４日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	59名	（回答者数）	48名
○従業者評価実施期間	７年　１２月　１０日	～	８年　１２月　２４日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○事業者向け自己評価表作成日	８年　２月　６日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人内に児童発達支援事業、児童発達支援センターがあり、子ども同士、交流する機会があります。更に、職員間で行き来しあい、子どもの様子を多角的に捉えています。	次年度、遊学館に入所が決まっている年長児のお子さんが、建物に来て一緒に療育に参加します。学齢児が年長児のお世話をしたり、一緒に遊びに参加する事で、いつもとは違う、子ども達同士のやり取りを展開しています。また、いつもとは違う大人と関わる機会にも繋げています。	引き続き、法人内の療育部門と連携を図りながら、一貫した療育のねらいのもと、子ども一人一人が、その子らしく健やかに育っていける様、努めていきます。
2	小学校を卒業する児童については、入学先での中学校への引継ぎを行っています。	目の前のお子さんが、力が発揮したり、その子らしさが見られる為の、大人側からの関りや、必要な環境を要因を、中学校の先生方にも知って頂く為の、引継ぎになるよう努めています。	親御さんや本人のニーズを確認・把握しながら、中学校という環境で、ニーズに合わせた生活が過ごせるよう、要点をまとめて、中学校へ引継ぎしていきます。
3	小集団療育を行い、個々のねらい・ニーズに合わせた療育を展開しています。	小集団の療育の中で、大人を介しながら、”子ども同士がお互いに目を向けられる事。興味関心を持つ事。人と一緒にやり取りをする事の楽しさを知って行ける事。”に繋がるような、療育の展開を行っています。	遊学館以外の場所（小学校・他事業所・習い事・地域等）での児童の様子を把握・共有する事で、多角的にお子さんを捉えて、お子さん同士のやり取りに繋がる為の情報を知っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービスガイドラインに合わせた、ねらい及び支援内容の、具体的な設定が弱い。	職員一人一人が、放課後等デイサービスガイドラインに対する理解が弱い為、ガイドラインを踏まえた支援内容の策定になっていない。	会議や打ち合わせ等を通して、放課後等デイサービスガイドラインに対する共通認識が深まる場を作っていく。
2	保護者同士が、情報共有する場や、交流を図っていく為の場作りが少ない。	保護者同士で、どの様な関わりを求めているか、ニーズの確認が十分ではない。	保護者の方にニーズを確認した上で、企画、提供の流れが出来ていくように努めます。
3			